

令和8年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 16	公益目的事業 19
主査名	大門 創 國學院大學准教授	
研究テーマ	スマートシェアリングシティの計画思想の再考	
<p>20世紀初頭にアメリカで始まった大量生産方式は工業製品の価格の低廉化により、消費者の生活水準の向上をもたらした。しかしその一方で大量生産・大量消費・大量廃棄というリニア・エコノミーが進行し、限られた資源の浪費につながった。また大量廃棄による環境の悪化は人類社会の持続可能性を危機に陥れている。</p> <p>有限の資源を惜しみなく利用してきたこれまでの経済活動は遅かれ早かれ破綻せざるを得ない。いまや過去からの延長上でものを考える従来型の思考形態から、新たな考え方にもとづいた都市や経済の在り方に大きくパラダイムシフトをする必要に直面しているといっても過言ではない。</p> <p>土木学会エネルギー委員会では、スマートシェアリングシティ小委員会を立ち上げ、新しい時代の都市計画思想として、スマートシェアリングシティを提案した(2025年に書籍:スマートシェアリングシティを発行)。スマートシェアリングシティとは、「都市内の資源を賢く高度にシェアすることを通じて、経済的価値とともに社会的価値を向上させる都市」のことである。</p> <p>本研究では、これまでの知見を踏まえた議論をし、スマートシェアリングシティの計画思想を再考する。</p> <p>研究は以下の3つの視点で分析や討議を行う。</p> <p>1) 書籍:スマートシェアリングシティの課題整理</p> <p>毎回、書籍執筆者が、それぞれスマートシェアリングシティの計画思想、政策・技術、実現方策を踏まえ、欠落している視点や課題の洗い出しを行い、研究メンバーで討議する。</p> <p>2) 社会思想の整理とシェアリングに与える影響分析</p> <p>西洋や東洋の行動規範の根底にある思想を整理するとともに、シェアリングや共同利用・適正分担という行動や状態に与える影響を明らかにする。</p> <p>3) スマートシェアリングシティの計画思想の構築</p> <p>西洋や東洋の社会思想とシェアリングに与える影響を踏まえ、スマートシェアリングシティの計画思想を構築する。</p>		